

マガキに取り憑かれたイソガニ (愛知県西尾市東幡豆における記録)

中村 肇⁽¹⁾ 鵜飼 普⁽²⁾⁽¹⁾ なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市中白区元八事五丁目230番地⁽²⁾ 三河淡水生物ネットワークReport of *Hemigrapsus sanguineus* which is possessed by *Crassostrea gigas* in Higashihazu, Nishio, Aichi, JapanHajime NAKAMURA⁽¹⁾ Futoshi UKAI⁽²⁾⁽¹⁾ Nagoya Biodiversity Center, 5-230 Motoyagoto, Tempaku, Nagoya, Aichi, 468-0066, Japan⁽²⁾ Mikawa Freshwater Life Network

Correspondence:

Hajime NAKAMURA E-mail:nakamura@tameike.info

はじめに

イソガニ *Hemigrapsus sanguineus* (De Haan, 1835) は、北海道から九州、沖縄に分布し、潮間帯の転石下などに生息するモクズガニ科のカニである (今原 (編), 2013)。

本報は、著者の一人である鵜飼が、マガキが着生するイソガニを愛知県西尾市東幡豆で採集した記録である。

確認の経緯

鵜飼は、2014年6月14日の午前11時45分頃、東幡豆海岸・前島潮干狩り場 (愛知県西尾市東幡豆) (図1) の水深が20cm程度で波が穏やかな砂浜において、カニらしき生物を目撃したため、採集して確認したところ甲にカキが付着するカニであった。

そこで、生息地の海水とともに持ち帰って観察したところ、このカニは甲に付着するカキの重み等により歩行が困難であり、裏返りやすいことが確認された。

中村は6月16日に鵜飼からこのカニを譲り受け、イソガニであると同定し、マガキ *Crassostrea gigas* (Thunberg, 1793) を含む複数の二枚貝が付着している

ことを確認した。

結果

今回報告するイソガニ (図2) は、甲幅37mmのオスで左第4歩脚が欠損し、甲および右第3歩脚にマガキが付着していた。また、腹部の生殖器周辺等には複数の二枚貝が付着しており、イソガニから取り外したところ、イガイ科 (図3) およびキヌマトイガイ科 (図4) の稚貝と思われる個体を確認したが、今回の報告では同定が不十分なため不明種として取り扱う。

証拠標本

このイソガニおよびイソガニに付着する二枚貝は、標本化する目的で冷凍した後、70%エタノール液浸標本とし、中村が保管している。

引用文献

今原幸光 (編). 2013. 写真でわかる磯の生き物図鑑. トンボ出版, 大阪. 279pp



図1. 東幡豆海岸 (撮影: 2014年7月12日, 鶴飼)

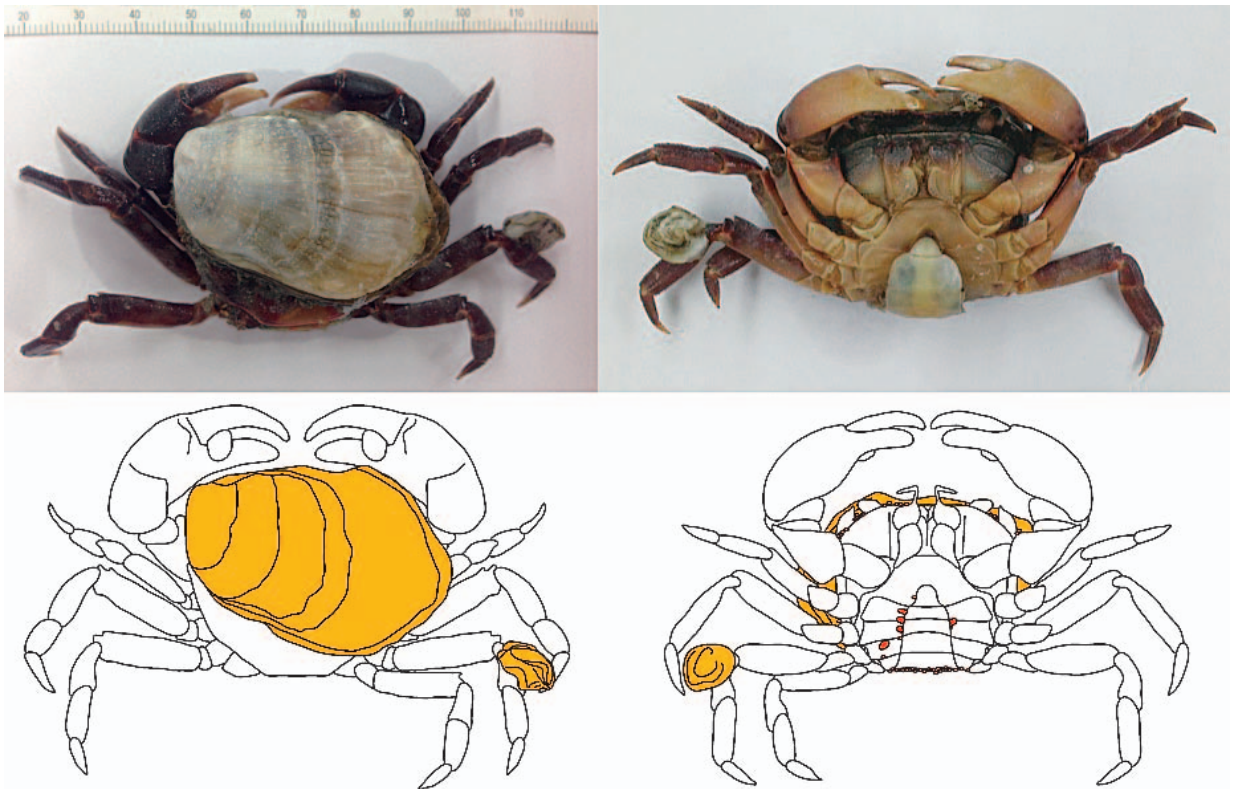


図2. マガキが付着するイソガニ



図3. イソガニの腹部に付着する二枚貝の一種 (1)

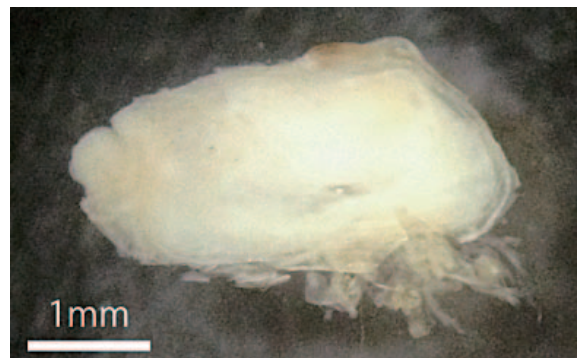


図4. イソガニの腹部に付着する二枚貝の一種 (2)